

雜報

家試験を行なつて医師免許を与えるという点で各界の意見が統一されたが、インターン制度に代わる臨床研修制度案が決まらず、国会 upper 程は見送られた。昭和四十二年にも、新しい研修方式について意見がまとまらず、制度改革は見送りとなったが、そのため一部大学医学部では学生・研修生のストライキが発生した。

昭和四十三年には改正法案が上程され、同年五月に衆議院修正案通りに可決されたが、修正の骨子は、卒後研修の修了を「医籍に登録する」ことを止め、「厚生大臣に報告する」点にあった。

昭和四十三年の法案審議中には一部の医学部・医科大学においてストライキが行なわれたが、同年秋には全国的にみてはほぼ解除され、漸次平静に戻った。

日本医史学会関西支部秋季大会

とき 十一月十三日(日)

ところ 大阪市北区中之島四丁目

大阪大学医学部 二階会議室

演題

- 1 (示説) ボードイン・アルバム一八六二—一八七〇の日本の写真百五十枚から 石田 純郎(三菱水島病院)
- 2 E・ベルツとO・A・G(ドイツ東洋文化研究協会) 安井 広(愛知県)
- 3 S・リンガー(一八三五・一九一〇) 栗本 宗治(大阪医大)
- 4 越前版俗解八十一難経の異版について 岩治 勇一(大野市)
- 5 鳥取藩における御薬園と平田眠翁 森 納(鳥取県)
- 6 山脇東洋の解剖の地に関する新知見 宗田 一(杏雨書屋)
- 7 本邦東西の三大切断術の描画(供覧) 山中 太木(高槻市)
- 8 私家蔵の医家遺墨について 中山 沃(岡山大学)
- 9 日本人の湯治観—箱根「七湯の枝折」を中心として 中沢 修(岡崎市)

- 10 究理堂文庫所蔵の北陸ゆかりの医人と写真
寺畑 喜朔(金沢医大)
- 11 弘賛法華伝 巻第八 にみえる一症状について
杉本 茂春(大阪歯大)
- 12 津近在の明治初期種痘について
茅原 弘(津市)
- 13 「大阪市種痘歴史」の著者 松本端とその周辺
古西 義麿(大阪市立花図書館)
- 14 征台の役(明治七年)に宮内省より差遣されたドイツ人医師
佐久間温巳(西尾市)
- 15 英医ウィリアム・アンダーソンの日中美術史関係の業績について
蒲原 宏(新潟市)
- 16 医学史のかかれかた
中川 米造(大阪大学)
- 17 カルテの保管について
長門谷洋治(堺市)
- 18 ハン オンノールト著 緒方公裁訳 白内醫治術集論
藤野恒三郎(箕面市)
- 19 播州某医家旧蔵医書について
杉立 義一(京都市)